ひだまり

－ほけんだより－

2020. 5. 29 Fri

2号　北中城高等学校

注!意　虫ささされ注意

毎年、この時期になると「背中がオレンジ色で黒いこぶ」が特徴的な「タイワンキドクガの幼虫（ケムシ）」の目撃情報や被害があり注意が必要です。よくケムシの被害が出るのは、グラウンド周辺など。ただ、校内いたるところに樹木が多くありますので、特に晴れた日は木の下、近くを避けて歩きましょう。

また、毒を持っている「毛」は大抵小さく、細かいため、風に乗って遠くまで運ばれるため、いつどこで症状が出るかわかりません。かゆみや腫れ等の症状が現れたらためらわずに保健室へきてください。

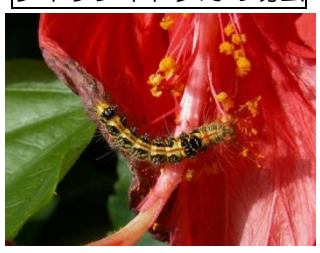
また、「北高ムシ」と言われている、小さな羽ムシ（ヌカカ）の被害も出ています。

以下、特に毒性が強く注意の必要な「タイワンキドクガの幼虫」と「ヌカカ」について紹介します。

タイワンキドクガ　奄美、沖縄県にのみ生息。幼虫は２～３㎝ほど。成虫、幼虫ともに細かい毒針毛を体の表面に持ち、この毛に刺されると毒蛾皮膚炎（どくがひふえん）を起こす。

食草が広く、どこにでもいると考えて用心した方がよい。＊特にくわでぃーさー（モモタマナ）に多く見られます。

タイワンキドクガの幼虫



！！被害にあった時の応急処置：重症例もあるので症状がひどい時は皮膚科を受診しましょう

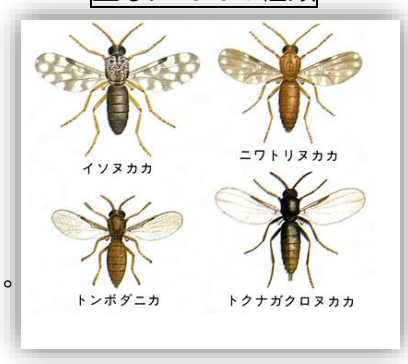
①毒蛾（幼虫、ケムシ）に刺されたと思ったら、直ちに衣服を脱いでガムテープ等で毒針毛を取り除く処置を数回繰り返す。

②流水やシャワーで洗い流す（石けんを使用）。

③痒いと感じてもできるだけ掻かずに、氷で冷やし、かゆみ止めなどを塗る。（チクチクしだしてから数時間後までは皮膚表面に毒針毛が残っていることがある。かくことで毒針毛をより多く、より深く刺入させてしまい症状がひどくなるのでかかないこと。）

ヌカカ　ヌカカ（糠蚊）は、１～１．５mm 程度の小さな吸血害虫で、「蚊」と名前についているが「ハエ」の仲間。成虫（メス）が吸血するときに注入する物質に対するアレルギー反応により、激しいかゆみ、腫れ等の皮膚炎を起こす。　ヌカカは、体が小さいため網戸をすり抜けて屋内に入り込んだり、衣服や髪の毛にまで潜り込んで刺すこともある。

主なヌカカの種類



予防法：①屋外で活動するときは、できるだけ肌の露出を減らすようにしましょう。

②**ヌカカには虫除け剤が効果的**のようです。心配な生徒は、虫除けスプレーを利用しましょう。（保健室にも準備しています）

！！被害にあった時：症状がひどい時は皮膚科を受診しましょう

①かゆみがとても強いので、一般的な虫ささされの薬はあまり効果がありません。化膿止めと抗ヒスタミン剤が含まれるような軟膏を塗り、患部を冷やして下さい。薬局で相談して下さい。（なお、保健室では化膿止め軟膏などは置いていません）

②刺された範囲が広い、市販薬で効果がない、水ぶくれや化膿が起きているような場合は、必ず皮膚科を受診しましょう。

③校内で被害にあった場合は、程度にかかわらず保健室へもお知らせ下さい。日本スポーツ振興センターの災害共済へ申請することができます。

＊校内で被害にあった場合は、程度に関わらず保健室にて応急手当を受けてください。